

山梨県中学生交通安全弁論大会

交通安全弁論大会で深澤穂乃花(武川中学)が優勝!

第60回山梨県中学生交通安全弁論大会(山梨県警察本部・(一財)山梨県交通安全協会共催)が10月26日、甲斐市の双葉ふれあい文化館で開催されました。大会は、交通安全について考えを述べるもので、県内12警察署管内の地区大会で選抜された14人が参加し、「論旨」「表現」「発表の態度」を基準に審査した結果、「安心・安全への第一歩」の演題で発表した北杜市立武川中学校3年深澤穂乃花さんが昨年に引き続き、2年連続して優勝しました。出場者は、全員、中学生の視点で自分の考えや感じたことを訴え、審査員をはじめとした聴取者全員が交通安全について考えさせられるものでした。

弁論の内容につきましては、「中学生交通安全弁論要旨集」を発行し、県下の中学校をはじめ、関係機関・団体に交通安全教育資料として配布します。

◇優勝

深澤 穂乃花(武川中学校3年)

◇準優勝

坂本 亜友莉(竜王中学校2年)

奥平 奈那(山梨大学教育学部附属中学校2年)

田村 綾望(河口湖北中学校3年)

◇優秀賞

安富 美佳(甲陵中学校3年)・市瀬 杏奈(三珠中学校2年)

佐藤 はな(上野原西中学校2年)・山口 鈴未(道志中学校2年)

清水 昭伸(早川中学校3年)・龍澤 摩耶(押原中学校3年)・高橋 輝(双葉中学校3年)

渡邊 滯(八田中学校2年)・白澤侑美夏(一宮中学校3年)・中村 美幸(松里中学校2年)(発表順)=以上敬称略



山梨県中学生交通安全弁論大会優勝作品

「安全・安心への第一歩」 深澤 穂乃花(武川中学校3年)

私は武川中学校の生徒会長。「皆さんが1日を安心して過ごせるよう挨拶運動に取り組んでいる。」「おはようございます。」「おはようございます。」先ほどの言葉に嘘はありませんが、実際の私の心境は少し違っていた。朝早く起きるのはつらいし、挨拶を返してくれない人もいる。そこには、積極的になれない自分がいた。

あの出来事がおこるまでは。

それは、母の運転する車に乗っていた時のこと、突然何かを避けるように、前の車がハンドルを切った。視界が開けた私たちの目の前には、胸元に白い杖と鞆をぎゅと握りしめたおばあさんが立ちすくんでいた。おそらく交差点を渡りきる前に信号が変わってしまったのだろう。

私はこの危険な光景に言葉を失った。しかし、母は違っていた。なるべく交通の邪魔にならないよう道路の端へ車を止め、おばあさんへ近づいた。そして、腕を組むようにして交差点を渡り始めた。母が無事に渡り終え私は安堵した。車に戻ってきた母を私は興奮気味に迎えた。

ところが、車に戻った母の表情はとてもこわばっていた。それは、横断中のおばあさんが、「迷惑をかけてすみません」と何度も、母の胸が痛くなるほど謝ってきたからだった。しかも、母に対して、「早く車をどかせ。」という怒鳴り声すらも襲っていたのだ。「なぜ交差点を渡ろうとしただけの者が、その行為を助けようとした者が、心に傷を負わなければならないのか。」

私は強い憤りを感じた。

「誰もが安心安全な交通社会」は当たり前には存在していなかった。だから、私達が、いや、私が「何とかしなければならない。」と強く決意した。

私は、行動に出た。学校の敷地内ではなく、一般道の交差点に立ち、道行くドライバーや通行人に声をかけた。「気をつけてね。行ってらっしゃい。」朝は元気に送り出し、帰りは笑顔で迎え入れる。家族と毎日交わしている無事を祈る言葉だ。正直、「たかが中学生の言葉では」と、不安になるときもある。でも、そんな私を支えているのは、心の底から湧き出てきた、「何とかしなければ」という思いだった。すると、顔見知りも増え、いつしか、車の中の人とも視線で会話ができるような感覚を得た。

「全ての人が安心安全に過ごせる交通社会」を人任せにはしてはいけない。私達こそが当人だ。まずは、自分自身が一歩を踏み出す。この一歩がいつか大勢の人たちが通る安心・安全の為の大きな道と必ずなる。

私は明日も、この交差点にたち、ドライバーの皆さんと、会話を交わす。「行ってらっしゃい。」「行ってくるよ。」

私にはみんなの無事を祈る声が、しっかりと聞こえてくる。

